

## 能登半島地震・被災者支援プログラムの報告（第21回）

東京都・TVAC・CS-Tokyo

■日程：2024年9月11日（水）～9月14日（土）

■ボランティア参加者数：20名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
9月12日（木）	穴水町諸橋地区 諸橋仮設団地	9名
9月12日（木）	穴水町甲地区 兜公民館	15名
9月12日（木）	穴水町中居地区 住吉公民館	12名
9月12日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	12名
9月13日（金）	穴水町志ヶ浦地区 志ヶ浦コミュニティセンター	17名
9月13日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	32名
9月13日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会所	34名
9月13日（金）	輪島市門前地区 浦上公民館	32名

■被災者の声（主なもの）

- ・この場に来ると胸の重みが軽くなる気がする。今、何か不自由があるわけではないが1人でいると気が沈むのでこの場所はありがたい。
- ・昔は町の景観維持のために草むしりの声をかけると、十何人も集まった。今は5、6人しか集まらない。
- ・大きなエリアを集めて仮設住宅を用意するのではなく、今のコミュニティと同じ規模の小さい仮設住宅を増やしてほしい。
- ・眠れないので朝3時に家の周辺を周回している。
- ・仮設は別荘と思うと、上向きな気持ちになる。仮設にいると新しく会う人と買い物に行けて楽しい。
- ・お墓を直すのに補助が出るのを知らなかった、情報が回りきってない。
- ・建築会社に勤めていたが、地震で会社が立ち行かなくなり、辞めてくれと言われてしまった。退職金、見舞金も貰えなかった。遠い場所から来た人には言えるが、周りの人には言えない。
- ・合唱をやっていたけど震災後できなくなっていた、歌を歌えてよかった。
- ・子供たちが独立してしまったので1人でご飯を食べている。話ができることがうれしい。あと2回で活動が終わってしまうのが寂しい。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・1年後や、2年後にも、その時の気持ちを吐き出せる場が必要だと感じた。こういった活動を可能であれば、可能な範囲で継続してほしいと思った。
- ・参加者の方同士が地震のことについて積極的に話し合い、ボランティアにも詳しい状況や制度について教えてくださる方が多かった。
- ・震災から9ヶ月が経過し、少しずつ前向きになっている部分も感じた。地域のコミュニティで話をしたことが貢献しているのかと思った。受け止める時間とこういう機会が大事。

